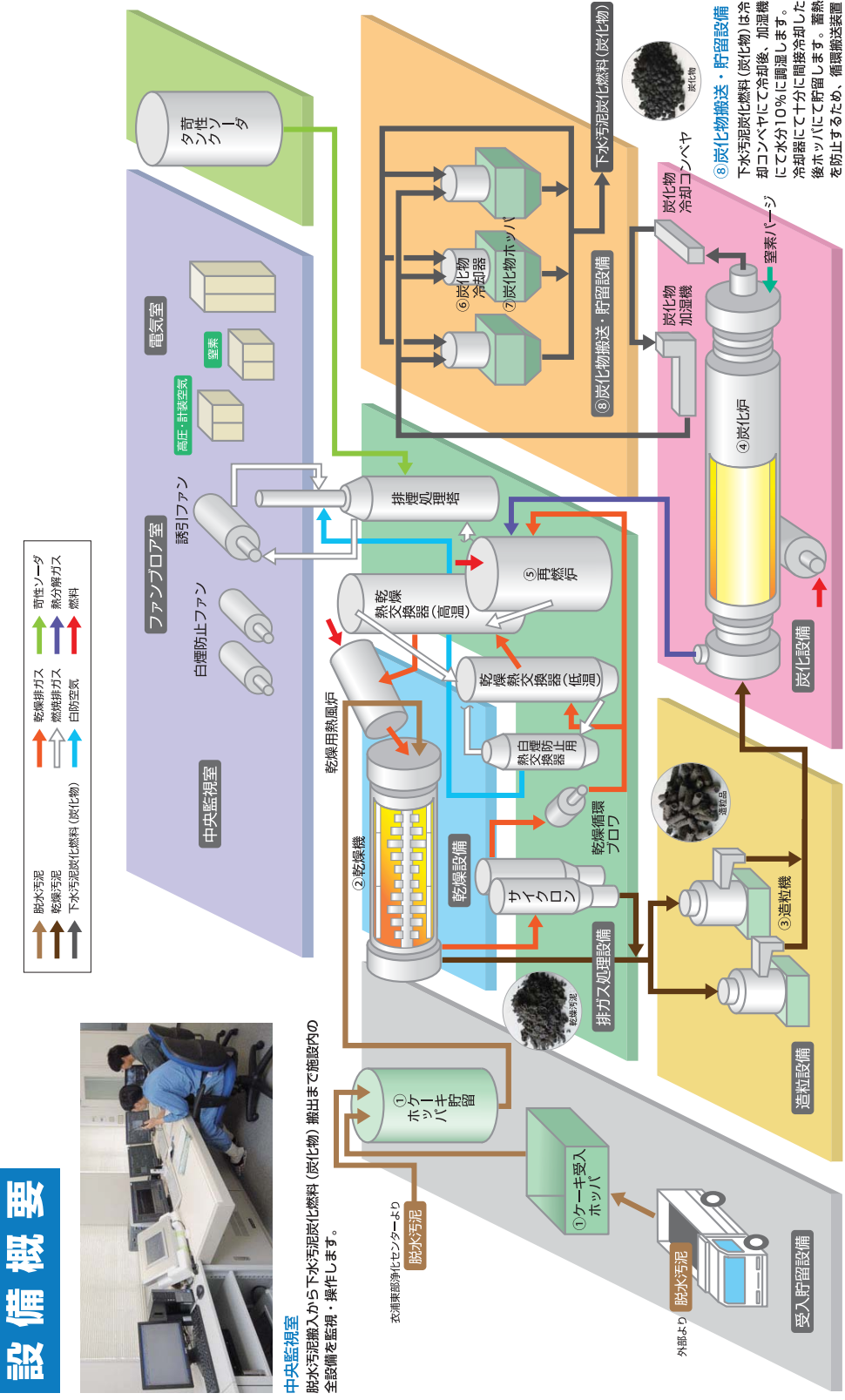


下水汚泥燃料化施設の設備概要



中央監視室
脱水汚泥搬入から下水汚泥炭化燃料(炭化物)搬出まで施設内の全設備を監視・操作します。



⑥炭化物冷却器 (多層式間接冷却)
下水汚泥炭化燃料(炭化物)を45℃以下まで間接冷却し安定化させます。



⑦炭化物ホッパー (20m³×3基)
下水汚泥炭化燃料(炭化物)を一時貯留します。



⑧炭化物搬送・貯留設備
下水汚泥炭化燃料(炭化物)は冷却コンベヤにて冷却後、加湿機にて水分10%に調整します。蓄熱後ホッパーにて貯留し、循環搬送装置も具備しています。



①ケーキ貯留ホッパー (115 m³)・ケーキ受入ホッパー (30 m³)
搬入された脱水汚泥を一時貯留します。



②汚泥乾燥機 (攪拌機付き回転キルン)
熱風度を約600℃に調整しながら下水汚泥を水分20～30%となるまで1時間程度乾燥させます。



③造粒機 (押出成型式)
粉塵抑制のため乾燥汚泥を約5～6mm、長さ約10～15mmに成型します。



④炭化炉 (熱風式外熱キルン)
造られた乾燥汚泥を、熱風により間接加熱にて炭化温度500～600℃滞留時間1時間で炭化処理を行います。



⑤再燃炉 (縦型円筒炉)
炭化炉から排出される熱分解ガスおよび乾燥排ガスをガス温度850℃以上滞留時間2秒以上の高温で完全燃焼させ、NOx排出量を低減させます。